王子元横山村大義寺。神像木立像。二尺一寸。繩敷天神と号する神像なり。本社六尺四方。上屋三間四面。拝殿二間三間。鐘楼四つ足。宮番寮一宇。木華表正面にあり。東向なり。

猿山嶺　猿丸峠とも号す。北野村の南続き、打越村の地にして、この嶺上に堺あり。由井領と由木領の限りなり。嶺上のまた高き丘に、大石道俊の碑石あり。或云大石定久入道遺命して、この嶺上に着具の甲を埋めて碑石を建てけるゆえ、往古は甲山峠と唱えけるが、その後文字を誤りて甲を申に書き来たりたれば、サルと読み来たれるより転じて読みやすき猿という文字になりけると云。この道筋は八王子辺より子安、北野、打越と出て、この嶺を越えて由木領を通り小野路、大蔵を経て都筑郡へ入りて、神奈川筋への往還なり。大石氏の碑石いまも山上にあり。

梅洞寺　打越村にあり。金湯山と号す。済門、山田広園寺末なり。本尊釈迦。開山実翁恵真和尚明応三甲寅年（一四九四）二月廿四日寂。

光厳寺　同村にあり。同宗、同寺末なり。開山は本寺開山法光円融禅師なり。開基光厳寺殿法雲玄正大居士。仏殿に位牌あれども、俗名なければ何人なるか知れず。按ずるにこれも大江姓の人なるべし。

住吉社　片倉村にあり。打越、子安の西南につづけり。村内産土神なり。社地はいま古城山の半腹にあり。往古は城山の麓にありて、いまも社地跡に神木と称する古木あり。中古以来は山上に移し祀れると云。例祭七月十九日。御朱印社領七石。別当村内来光寺。本社五尺。上屋三間五間。本地十一面観音。左右に不動尊、毘沙門天。各運慶作。神鏡銅丸鏡 径六寸二分。上に紐付穴あり。真中に本地十一面の像。左右に銘文あり「住吉大明神、別当来光寺頼尊、武州多西郡横山庄片倉村惣社、天文廿三年（一五五四）甲寅六月吉日……」

来光寺　住吉別当。住吉山世尊院金蔵坊と号す。新義真言、宇津木竜光寺末なり。この寺は城地の鬼門に当たりて、城主の祈願所なりと云。本尊不動明王。開山不知。開基は備中守大江師親なりと言い伝えける由。

熊野権現　境内鎮守の小祠。神体丸鏡、径七寸五分。表に仏像三体、熊野三社の本地仏なり。裏に「武州多西郡横山庄片倉村熊野権現来光寺頼尊敬白、天文廿四年（一五五五）乙卯四月吉日」とあり。

慈眼寺　同村。白華山と号す。曹洞宗、由木村永林寺末なり。御朱印六石。客殿。庫裡。鐘楼。門。本尊正観音木立像。三寸三分。運慶作。開山岳応義堅和尚天正十五年（一五八七）十月十日寂。

斟珠庵　同村。常竜山と号す。済門、山田広園寺末なり。御朱印五石。本尊弥勒仏。開山春林西堂永禄十二年（一五六九）六月六日寂。

時田の池　斟珠庵境内。表門の傍にあり。広さ十四、五間四方。池中の島に弁天の社あり。清泉は谷間より湧き出す。池水清涼にして、深さ一尋余。斟珠庵の境内辺を小名時田と号するゆえ、時田の弁天と称せり。

城趾　右同村の中央にあり。高さ五、六丈。山上の平地二ヶ所あり。西の方の平地南北七、八十間、東西四、五十間。北の方の平地南北三十間程、東西四十間許。その両所の平地の間に空湟あり。北寄りの平地の続きに古井の跡あり。ここは奥向とも見えたり。南の方に表口と見えて坂道の跡あり。平地へ入口のところは左右築地の間二、三間切れて見ゆれば、ここは城門口なるべし。東より南西の方は築地の外に空湟深く、南の隅に当たりて堀切の外に高く築きあげたる独立の地あり。物見櫓など構えたるにや。西の方は丘陵の地、城地より続きたれば、西の方の堀切は殊に深し。東南北は山続きなく、この城山の下は陸、水の田地なり。民家はこの山の麓にありて、屋後より山上まで雑木の林となりければ、南の方は表口なるべけれども、茂林の中ゆえに分かちがたし。北の方に湯殿川の流れありて、城山の麓を東へ流れて、南は宇津貫村、寺田村、大舟村辺より谷川の小流来たりて、往古この両方の川をふさぎて大沼となしたる由。

又云山上の北の方の平地の少し下を切り開いて、村鎮守の住吉社を移す砌、唐銅の鍋、或は敷石などを穿ち出せしことありと云。ここを城山といえども、分内狭ければ、古えの屋敷構えの跡なるか。城主なる人、しかと知れず。土人云山田広園寺を開基せし備中守大江師親住居の跡なりと言い伝うれども、何の書にも見え侍らぬことなれば、土人の伝説は挙用しがたし。

杉山嶺　杉山峠と号して、昇降十五、六町。由木領遣水嶺より続きたる山なり。相州小田原辺への街道にて、八王子より来たりて、この山を南へ下れば相州相原の内、橋本